

2021 生誕100年
開館25周年



利根山光人

Toneyama Kojin

第111号 2021年8月23日

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

利根山光人
生誕100年記念
美術館
開館25周年
記念企画展Ⅱ

利根山光人記念大賞受賞作品展

過去6回の記念大賞展・部門賞(準大賞)受賞作品18点を展示(会場:利根山光人記念美術館)

利根山光人記念美術館のあゆみ展

通信・チラシ・ポスターなどの刊行物で25年間の美術館の歴史を振り返る

(会場:おでんせプラザぐるーぷ(北上駅西側)1階特設会場)

2021年9月4日(土) - 11月30日(火)

「この絵なら雲上の利根山さんにもっこりされるにちがいない。豊穡たるみちのくの自然風土に、赤鬼青鬼の精霊がひそむといわれる祭都・北上で開かれたビエンナーレ展にはうってつけの受賞作品だった。」2002年に開催された第1回利根山光人記念大賞展ビエンナーレ・きたかみで審査員を務めた窪島誠一郎氏(当時、信濃デッサン館々主)の、第1回大賞受賞作品の審査評である。

以来、トリエンナーレ、版画展と形式を変え、2017年の開館20周年記念大賞展まで北上発の全国公募展が開催されてきたが、毎回その質の高さが審査員の間で絶賛され、地元の作家が上位入賞者として常に名を連ねていたということも大いに注目されてきた。



第1回大賞作品

無意識的精神構築記

“暖かい愛情で潤う生命の樹”

傍嶋飛龍(神奈川県)

画伯の精神が反映された作品が多く寄せられる原動力となったのは「祭り」というテーマの設定にあり、大賞展全体がより洗練され、活気に満ちたものになっていたと言える。今企画展では、これらの記念大賞展の上位入賞作品全18点を展示する。

第2回以降の大賞受賞作

第2回	降臨 菊地仁美(岩手県)
第3回	北国の祀り(おしらさま) 川杉雅江(岩手県)
第4回	宴たけなわ、今夜も大忙し! 都丸直子(愛知県)
第5回	私たちのだいな何か 菊池咲(岩手県)
開館20周年 記念	Under current 2 渡邊加奈子(東京都)

さらには別会場にて、これまでの企画展や美術館の歴史を振り返るという趣旨で、チラシやポスター、美術館通信をはじめとする刊行物等を展示する。また、市の所蔵作品、故桑原イト子コレクションの一部も展示する。観覧を通して、展勝地を見下ろす高台の美術館における非日常的空間での鑑賞の記憶を呼び覚ましていただき、心に静かに浮かんだなんらかの声をまた美術館に届けていただけたら幸いである。美術館の未来を創るのはそうした声だと信じている。

あうん おんでこ 「阿咩-佐渡の鬼太鼓」公開中

9/2までの中期企画展で初公開された、一對の油彩「阿咩-佐渡の鬼太鼓」が常設展示として引き続き公開中です。

美術館の展示では最大の大きさを誇り、その迫力に新聞やテレビ中継でも報道され、来館者の注目を集めています。遠く佐渡から運ばれた、画伯渾身の大作をぜひご覧ください。



常設展示として継続公開する油彩大作「咩」

利根山光人生誕 100 年・記念美術館開館 25 周年記念事業

巡回美術館 in 各地区交流センター

「利根山光人作品展」

画伯の油彩、水彩、版画作品数点を各地区の皆さんに間近で見ていただく記念企画です。

ぜひ地区交流センターに足を運んでください。

その他の記念事業の予定

◎ 9/19 (日) 記念式典・祝賀会

日本経済新聞社編集委員兼論説委員
窪田直子氏の記念講演会

「利根山光人と『メヒコ・マヒコ』」

～日本人画家を魅了したメキシコの魔術的世界とは～

◎ 9/26 (日) 秋の美術館まつり

美術館屋外スペースにて「親子造形遊び」「作品鑑賞会」を、そして「太陽を描く共同制作：つながる太陽プロジェクト」を予定。



巡回美術館で展示している利根山作品の一部

◎巡回日程

期間	交流センター名
8月16日(月)～ 8月27日(金)	黒沢尻北、岩崎
8月30日(月)～ 9月10日(金)	二子、更木
9月13日(月)～ 9月24日(金)	藤根
9月16日(木)～ 9月24日(金)	江釣子
9月27日(月)～ 10月8日(金)	鬼柳、相去
10月14日(木)～ 10月25日(月)	黒沢尻東、黒沢尻西
11月8日(月)～ 11月19日(金)	飯豊

～@TONE美～ 「利根山光人を巡る旅」②

JR常磐線で松戸駅の東口に出て、徒歩2、3分のイトーヨーカドーの店内に入り、5階へ向かう。このフロアには「聖徳大学はこちら」という表示があり、そのまま進むと守衛さんがいる受付へ出た。

受付で名乗ると、暫くして事前に連絡していた担当の図書館事務兼博物館事務室青柳邦忠さんが迎えに来てくれた。

構内には聖徳大学（女子）、聖徳大学短期大学部（女子）、聖徳大学大学院（共学）と附属幼稚園がある。当日は雨天ということもあり、外観と一部しか見られなかったが、全体的に新しく、これぞ川並香順先生の「こだわり」であり、まぎれもなくゆったりとした芸術性を感じる豪華な、非日常的な空間であった。

頂いた資料によると利根山以外の作家作品として、国際照明デザイン賞を受賞した石井幹子氏の「光のシンフォニー」をはじめ、彫刻などのオブジェ、その他ロビーシャンデリアなどがいたるところに設置されているという。

1号館には図書館や博物館があり、博物館には受付を行えば一般の人も見学することができるようだ（新型コロナウイルス感染症拡大防止対応期間中、部外者は入構できない）。頂いた資料のなかに古い写真があり、かつて旧1号館の前に噴水があり、中央のオブジェは利根山画伯作と記されていた。その噴水周辺は新1号館になり、噴水は形を変え、彫刻家、流政之氏の「SHAN SHAN」というタイトルの作品となっている。

8号館にある利根山光人記念ギャラリーは、当日は入れ替え作業を行っていた。ここでは利根山作品だけでなく、他の企画展も実施している。画伯作品の所蔵数は小品を加えると560点ぐらいとのことであった。

ここ聖徳学園内の利根山の大作群は「古代」「未来」「太陽」「希望」がキーワードになっていて、特に壁画系は「未来」が共通のテーマと思える。北上駅の大陶壁画「日輪」も今なお鮮やかな色彩で、見る者に強烈な印象を与えるが、ここに設置されたどの作品も昨年完成したかのように瑞々しく、色あせることのない作品だ。

ただし、松戸キャンパス内に配置された壁画や緞帳、タペストリーなどの利根山作品で、実際見られるのは屋外に展示してある作品のみで、校舎、講堂等施設内ものは公開していない。（次号に続く）（専任研究員）



聖徳大学壁画第1号となる作品「若さ」（1965年、利根山光人制作）—聖徳大学1号館玄関ホール—

発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課

〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1 電話 0197-72-8304 FAX 0197-63-3121